



MINATO TOKYO

Bulletin

みなと
ユネスコ

MINATO UNESCO ASSOCIATION NEWS & CALENDAR

ISSUED BY/MINATO UNESCO ASSN. 16-3,SHIMBASHI 3-CHOME MINATO-KU TOKYO 105-0004/MITSUKO TAKAI PRES.
発行所/港ユネスコ協会 〒105-0004 東京都港区新橋3-16-3 TEL・FAX 03 (3434) 2233 発行人/高井光子

2015年9月1日発行 第141号

目次	
P1	巻頭言
P2-3	新入会員を囲む会
P4-6	国際理解講演会「戦後70年 歴史和解への道」
P6	ゆかた着付け体験教室
P7	アルバニアの家庭料理ワークショップ
P8-9	都立三田高校ユネスコ委員会の皆さん来室
P10-11	MUA サロン
P12	事務局便り / 編集後記

あの頃、この頃

港ユネスコ協会理事 清水軍治



昭和27年(1952年)大学へ進学した頃アコーディオンに出会った。その音色に魅せられ、独学でマスターして、以来60年。

プロ奏者にもなれずに、今日まで来てしまった。

あの頃・・・銀座にネオンの灯がともる頃、小さなクラブの店で、酔客の求めに応じてハヤリ歌を弾いていた。華やかなキャバレーの楽屋で、客からもらったチップをそのまま「坊や、ラーメンでも食べなさい」と私の手に握らせてくれたキレイなホステスのお姉さん。私は屋台のラーメンをすすりながら、彼女に恋をしてしまった。また、新宿、渋谷にあった歌声喫茶「カチューシャ」や「ともしび」にも出演した。

時が移り、エレクトーン等の電子オルガンが始め、プロのアコーディオン奏者が次つぎ、失職していった。もし、私がプロ奏者になっていたら、毎日の生活はドン底であったに違いない。

あの頃・・・昭和54年(1979年)、港区教育委員会から「ユネスコ協会設立準備に参加して欲しい。」との要請があった。参加したものの、故丹下健三初代会長、三輪公忠前会長などの間で小さくなって、ここは、私の「泳げる池」なのだろうか?と躊躇していた。

その後も、ディプロマツツ・レクチャー、国際シンポジウム等の英語を使う催しには出席できなかった。

世界の料理教室、新入会員を囲む会、みなと区民まつり、MUA サロン、UNESCO ユースフォーラムな

どには、自分なりに、楽しみながら参加してきた。

創立30周年記念特別事業「歌と踊りで世界をめぐる」で実行委員長をさせてもらったのが、私の副会長としての最後の「仕事」だった。プログラムには8団体が参加してくださった。

・・・インターナショナル・セカンダリー・スクール、東京インターナショナルスクール、「父と子のバグパイプ」、テンプル大学、ブルガリアの民謡と楽器演奏、韓国伝統舞踊、ラテンアメリカの歌と踊り、白門グリーンクラブの男声合唱。・・・

もう4年も前になるが、今も頭の中に、あの歌や踊りが、色鮮やかに蘇ってくる。参加団体を紹介し、運営に参加して下さった皆様に感謝で一杯だ。

長い間、常任理事会では「言うは易し、実行は成り難しだ」と、喧々諤々話し合ってきた。あの頃のことには懐かしく思うが、少しずつ遠くなってきた。

ボランティア団体、国際交流団体が林立する中で、これからの協会はユネスコ精神を守りながらの、特色ある活動にあると思う。時の流れは速く、時勢の変化も速く、対応が大変だろうと思う。どうぞ、会長を中心に、役員や会員の皆様、頑張ってください。

今日この頃・・・高齢者施設への慰問や、依頼を受けての歌声喫茶での伴奏と司会に時間を過ごしている。83歳ながら元気で、アコーディオンを弾きながら、殆どが70歳代の方がたと一緒に、大きな声で歌う喜びを共有できる幸せに感謝しています。

これを、残された人生の生き甲斐としている。

“歌は世界共通の言葉” さあ、歌いましょう。